

し、蛍光におよぼす要因の追求に応用する。

2. 白さの種々異なる生地に蛍光増白剤の濃度をかえて増白を行ない、蛍光エネルギー分布を求め、生地 of 視感反射率との関連性を検討した。

さらにALLENの式より求めた値を理論値として両者の検討を行なった。

3. 生地 of 白さが異なる場合はその視感反射率が高いものほど比蛍光は大である。また蛍光増白剤の濃度を变化させた場合も生地 of 視感反射率が高いものほど一定濃度までその効果が増大する。

なおこれらの実験値とALLENの理論値の間には、ある系統性が認められ、これを応用すれば蛍光の要因追求に役立つものと考えられる。

B-4 被服地の白さについて (第4報) — 蛍光におよぼす要因の検討 —

椋山女学園大家政 ○加藤 雪枝
山下 真弓
椋山 藤子

1. 被服地の白さを評価するには生地 of 白さと蛍光の効果を総合して考えなければならない。蛍光におよぼす要因は種々あると考えられるが、今回は生地 of 白さの程度と蛍光増白剤の種類および濃度が蛍光エネルギーにどのように影響するかを明らかにしたいと考えた。

一方ALLENの報告によれば、数カ所の反射率測定値より算出して比蛍光を求めることができる。さきの実験値と理論値の間にどのような系統性があるかを検討